

課題とポテンシャルのまとめ

■板橋公園内の課題

- 乗り物（足踏みゴーカート等）がこれからの時代に対応していない。
- 交通教室の場は学校にシフトしており、信号などの設備が有効に活用されていない。
- 施設が「交通」に特化している分、交通以外の魅力があまりない。
- 大人や高齢者が憩える場所がない。
- 駐車場がない。駐輪場が不足している。

■板橋公園周辺エリアとしての課題

- 駅から遠い 最寄りの大山駅から750m
- バス停が近くにない。
- シェアサイクルを使えない小さな子供連れが、安全にアクセスできる手段がない。
- 大山の再開発エリアと川越街道で隔てられており、まちづくりの中に板橋公園の位置づけが無い。
- 高齢化により、新たなニーズが発生している。

■板橋公園内のポテンシャル

- 乗り物や散歩で回遊できるコースがある。
- 自転車の練習などで、親子3代に渡って愛されている。
- P-FIの導入により、建蔽率が12%にできる。
- 公民連携により、新たなサービスを提供できる。
- 敷地の拡大（大山小学校跡地）による新たな付加価値を創出できる。
- 大山小学校跡地の原っぱが、保育園やピクニックに活用されている。
- メタセコイア、ケヤキ、サクラ等の季節を感じる樹木がある。

■板橋公園周辺エリアとしてのポテンシャル

- 再開発により、東西を結ぶバス路線ができる可能性がある。
- 補助26号線整備により、板橋公園を中心に東武東上線、都営三田線、副都心線をつなぐスムーズな導線ができ、周辺の公園や再開発エリアへの移動の軸となる。
- シェアサイクルが活用できる。
- ピッコロスクエアからは「あと徒歩6分」で来れる。
- 付近に大きな公園や緑地が無いため、花やみどりの整備により集客が期待できる。

継承すべき機能と新たに付加する機能

■継承すべき機能

- 自転車の練習
- 交通教育の場
- 樹木や原っぱ等、季節を感じられる雰囲気
- 管理事務所・集会所の機能
- 防災倉庫など、災害対応機能

■新たに付加すべき機能

- 高齢者も含めてあらゆる世代が利用できる、静かな憩いの空間と便益施設
- 弁当や食事など、飲食ができる場所やサービス
- スマートモビリティなど、新しい交通体験
- 乗り物と融和した、新たな花とみどりのデザイン
- 散歩やジョギングなど、徒歩でも気持ちよく回遊できるデザイン
- 集会所だけでなく、新たな利活用ができる複合施設（コミュニティルームなど）
- ブランド戦略やまちづくりの中での位置づけと、集客と誘導ができる仕掛け
- 駐輪場の拡張、シェアサイクルポート

板橋公園基本構想 <コンセプト>

花と緑と乗物が、未来へつながる、みんなの交通公園

板橋公園基本構想 <将来像>

- ・子どもから高齢者まで、多様な楽しみ方ができる憩いの場
- ・散歩からスマートモビリティまで、移動を楽しむ体験
- ・みどりと花と交通が溶け合うデザイン（風景、空間）